

2. 気候変動関連政策

気候変動がもたらす海面レベル上昇、台風、洪水、干ばつなどの自然災害はダッカが抱えている貧困、識字率の低さ、医療問題、失業率の高さなど社会経済的な問題と深く関連している。

■ ダッカ市が直面している気候変動に伴う問題

気温上昇・ヒートストレス	洪水リスク・脆弱性
<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季の長期化(夏季が3ヶ月だった30年前に比べ、現在は夏季が5~6ヶ月と長期化している) ・ 夏季の暑い日には都市部を中心に気温が40℃近くまで上がる ・ スラムに住む人々や、低所得者は4~6月にヒートストレスに苦しむ ・ 猛暑日の増加 ・ 毎年、夏季の水不足の影響で健康問題が生じる ・ 猛暑は雨により緩和されるが、雨季の訪れが例年より早く訪れたり、モンスーン終盤であったりと不定期化している ・ 冬季は短くなったが、寒い冬も発生するなど極端化している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季の長期化(夏季が3ヶ月だった30年前に比べ、現在は夏季が5~6ヶ月と長期化している) ・ 夏季の暑い日には都市部を中心に気温が40℃近くまで上がる ・ スラムに住む人々や、低所得者は4~6月にヒートストレスに苦しむ ・ 猛暑日の増加 ・ 毎年、夏季の水不足の影響で健康問題が生じる ・ 猛暑は雨により緩和されるが、雨季の訪れが例年より早く訪れたり、モンスーン終盤であったりと不定期化している ・ 冬季は短くなったが、寒い冬も発生するなど極端化している ・ 過去24年間で発生した大規模洪水(1988年、1998年、2004年、2007年)は、ダッカ市の50%もの市民に多大な影響をももたらした ・ スラムや低地に住む社会的立場の弱い市民が影響を受けやすい ・ ダッカ全域に対する洪水対策は進行中だが、政府は1980年代に多数発生した洪水の教訓を得て堤防や強化コンクリート壁などを建設。市内で人口密度が特に高い地域には排水ポンプを導入

出典:ダッカ市資料

2-1 気候変動政策

ダッカ市では2008年に政府が発表したバングラデシュ気候変動戦略行動計画(BCCSAP)を主軸としGHGガスを削減するプログラムに取り組んでいる。

■ ダッカ市のGHG削減プログラム

- ・ カーボンディスクロージャープロジェクト達成のためにC40と連携中
- ・ JICAと共に低炭素化社会計画を実行中
- ・ ダッカ南市庁による炭素削減イニシアティブ
- ・ クリーンエアー・持続可能な環境プロジェクト(CASE)
→ダッカの大気質工場、安全な移動手段の実現に向け、都市部の交通機関・レンガ工場にプロジェクトを導入
- ・ 交通機関(リキシャ)へのCNG導入
- ・ ダッカ市2005年交通戦略計画 / Strategic Transport Plan for Dhaka (STP)2005年
→ 持続可能な社会への一環として8つの主なカテゴリーから構成された計画を実行中
 - ① 環境配備
 - ② 交通効率向上
 - ③ モビリティ・アクセス向上
 - ④ 保安
 - ⑤ コスト面向上
 - ⑥ 達成能力の向上
 - ⑦ 経済発展
 - ⑧ 社会発展

2-2 エネルギー政策

■ ダッカ市の提案する可能性のある共同計画イニシアティブ

- ・ バングラデシュニーズ:技術移転・投資プログラム
- ・ ソーラーエネルギー利用、エネルギー効率の優れた電球を街頭に使用
- ・ 生物多様化デザイン、太陽光有効活用、太陽光熱温水システム、太陽光電池システム、エネルギー効率の優れた家電、雨水活用、排水リサイクル、廃棄物管理など多彩な要素を盛り込んだエコビルディング
- ・ ダッカ市での燃料電池自動車タクシーの実用化